

小瀬見
カレンダー

【11月】

3日「福光麻布」をたどるバスツアー（日本麻フェスティバル関連行事）9時
※越中福光麻布ギャラリー、かつての麻栽培地・立野脇など見学
29日「今年最終の江ざらい（草刈りや土砂上げなど）」7時45分に即成寺跡集合



大きな民家がちりばめられたように広がる砺波散居村をはじめ、家の様式やたたずまい、農産物や特産物、報恩講などの料理、宗教祭、石仏などの解説が写真とともに100ページ近くにわたり掲載されている。

砺波平野を代表する景観として知られる「砺波散居村」は美しい俯瞰（ふかん）写真を大きく載せ、その形成が江戸時代以来の開拓に始まったことなどを説明。「カインニ」と呼ばれる屋敷林も樹木の配置が方角によって種類分けされていることを記し、この地ならではの民家の建築様式であるアスマダチの語源には諸説

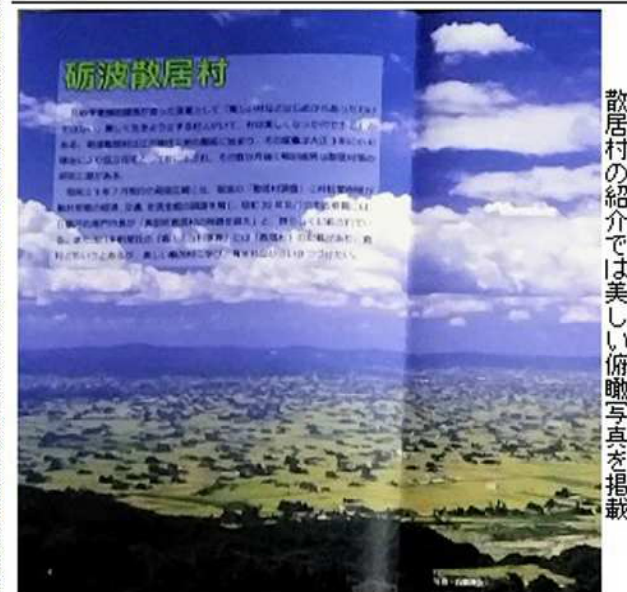
あることも特徴的に挙げている。「真宗王国」の欄では、砺波地方に真宗が広がった歴史をひも解き、それにつながる報恩講などの祝いの膳の中身も解説。東京浅草の浅草寺との深い縁もつづいて

砺波市の尾田武雄さん執筆
美しい郷里への愛を込め

著者は北陸石仏の会事務局長、砺波土蔵の会会長、日本石仏協合理事などを務める砺波市生まれの尾田武雄さん。「すばらしい砺波の風土、心を知っていたんだ」と口々に語っていた。11月15日には午前10時から、となみ散居村ミュージアム（砺波市太郎丸80）を会場に発行記念の「となみ野の魅力を発見しよう」を開催し、尾田さんらによるパネルディスカッションをはじめ、音楽演奏や郷土料理試食会、福光麻布展示販売なども行う。

砺波地域 貴重な歴史と風土知って

「となみ野ストーリー」発刊



散居村の紹介では美しい俯瞰写真を掲載

懐かしの足踏み脱穀に悪戦苦闘 子供も挑戦



田んぼの収穫体験で足踏み脱穀機に子供も挑戦

自然栽培の里・小瀬見の田んぼで20人近くが参加。田圃内で栽培されている7種類の古代米のうち稲穂の茎が大きな花のように開く品種「長粒赤」を刈り取った。稲は近くの山口家の古民家に持ち込み、足踏み脱穀機で作業を行ったが、回転させて穂先から籾を落とす円筒形の脱穀機（こきどう）がうまく回らず悪戦苦闘。子供らと懸命に取り組む姿が見られた。

富山市から自然に触れる機会を求め子供3人と参加した垣内敬代さん（43）は「小瀬見にしかない風景がある。子供の頃の思い出と感動した様子。小学4年の晴登（はると）さんは「稲の茎が硬くて刈るのが大変だったけど気持ちいい」と楽しんでいた。小瀬見は集落より上流に民家や田畑がなく、純粋な無農薬が実現された場所。今回のプログラムは、その環境で米をつくり、生き物や草花との関わりを知ること、自然と自分とのつながりについて考えてもらおうとHoney & Cotton（ハニコ）が企画。5月から毎月、作業イベントを開いてきた。

豪雨災害の爪痕復旧

秋の江ざらいに30人

小瀬見の田圃や棚田、あり、参加者はスコップに水を供給する水路を整え、草刈り機、チェーンソーなどを使い、懸念の復旧作業に当たった。今年、作業に当たった。3回目の実施だが、特に、集落の住民や出身者、今回は、夏の豪雨で水源ハニー・アンド・コット地の導水路が土砂で埋ま、小瀬見くらぶの関心など災害の爪痕が多数、係者をはじめ、県とやま農林・農業サポート活動支援事業の登録サポーターや、とやま森林サポーター3期会、美さんは「小瀬見に水路埋めた土砂上げに懸命



大谷川水源の土砂を取り除く参加者ら

すくいやされ、温かく迎えていただいた。汗かいて集中できた。満足そうだった。